

第4回日本肝胆膵外科学会 International Observership Program に参加して

鹿児島大学医学部保健学科
鹿児島大学病院消化器外科
新地洋之



日本肝胆膵外科学会の International Observership Program による第4期生として、2002年4月から2003年10月までの1年6ヶ月米国留学させて頂きました。米国の臨床医療を実際見て肌で感じることができ、非常に貴重な体験となりました。この留学で感じたことを少しではありますが、述べさせて頂きま

本留学制度の大きな特長は、肝胆膵外科で著名な米国の3施設を6ヶ月毎に rotate して実際の臨床、手術の見学と、臨床研究を行えることです。通常基礎研究で留学することが多い中で、きわめてユニークな留学制度だと思います。留学する3施設は、1) シアトルの Virginia Mason Medical Center (VMMC) (Dr.Traverso), 2) ロサンゼルス の UCLA Medical Center (Dr.Reber), 3) ミネソタ州ロチェスターの Mayo Clinic (Dr.Sarr, Dr.Farnell) です。

シアトルは最初の研修先であり、病棟、外来、手術の見学、術前術後カンファレンスへの参加などすべてが初めてのことであるためかなり鍛えられます。言葉の壁、習慣の違い、など新鮮な反面戸惑うことも多々ありました。臨床研修と同時に英会話のレッスンもあるため、ハードスケジュールでした。しかしこの濃密な6ヶ月のおかげで次からの研修がずい分楽になりました。シアトルは街がとてもきれいで、シーフードが最高に美味しい所でした。また、イチローのいるマリナーズの本拠地でもあり、観戦に行き非常に元気づけられました。

ロサンゼルスは、2ヶ所目ということもあり米国のシステムにもかなり慣れてきたため、スムーズに研修を迎えることができました。事前にメールにてお世話になる Dr.Reber に自分のやりたい臨床研究のテーマなどを伝えておいたので、自主的な有意義な研修を送ることができました。Dr.Reber の手術はとても丁寧で上手く、感動の連続でした。あっという間の6ヶ月でした。

最後のミネソタ州 ロチェスターへは、車で観光をしながら約1週間かけて大陸横断しました。大自然に圧倒され続けた日々でした。いつまでも忘れられない絶景の連続でした。Mayo Clinicは全米で上位にランキングされる病院だけあって、設備が完璧でした。世界各地から留学生や研究者が数多く集まる理由がよく分かりました。毎日招待講演があり、非常に勉強になりました。手術も肝胆膵手術、内視鏡手術、移植手術など数多く見学ができ、毎日が充実していました。Dr.Traverso, Dr.Reber, Dr.Sarr, Dr.Farnell とどの先生も熟練された非常にすばらしい手術をされており、手術見学だけでもずいぶん勉強になりました。

各施設で臨床研究テーマをいただき、臨床見学の合間にカルテレ뷰もさせて頂き、ずいぶん勉強になりました。研究テーマとしては、VMMCでは「膵頭十二指腸切除術後の膵空腸縫合不全の定義についての検討」、UCLAでは「進行膵癌の Neoadjuvant chemotherapy についての検討」をまとめさせて頂き、それぞれ Pancreas Club と American Colleges of Surgeon にて口演発表させて頂き、素晴らしい経験ができました。

Mayo Clinic では「慢性膵炎の再手術に関する検討」をまとめ、次の国際学会に応募したいと考えております。何とか最終的に論文となるよう完遂させたいと思っております。いずれの先生方もとても親切に接して下さり、本当に感謝しております。これらの米国の肝胆膵外科の高名な先生方と出会えたことは大きな財産となりました。今後もおつきあいさせて頂けたらと思います。今回の貴重な体験を今後少しでも生かしていければと思っております。また若い先生に留学の素晴らしさを伝えることができたらと思っております。

最後に、このような素晴らしい留学の機会を与えて下さった高田忠敬教授に深く感謝致します。また、いつもお励ましのメールを頂いた川原田教授、事務局の佐藤さん、高橋さんに心から感謝を申し上げます。